



# 大分県立竹田支援学校

— 同じ歩幅でともに歩み 生徒たちに輝ける未来を —



左から：校長・東 邦彦さん  
教頭・住吉亮一さん  
進路指導部・甲斐 武さん  
高等部主事・永田正典さん



竹田市にある「大分県立竹田支援学校」は、主に知的障がいのある生徒たちが学んでいます。現在、小学部から高等部まで58名の生徒が在籍し、授業や職場実習、様々な作業活動に励んでいます。「小中高の生徒が同じ屋根の下で学ぶので、小学部は中学部を、中学部は高等部の活動する姿がリアルなモデルケースになっていると思います。自分がこれから進む将来の姿を間近で感じ、実践できることは特別支援学校の強みだと感じています。」(校長・東邦彦さん)

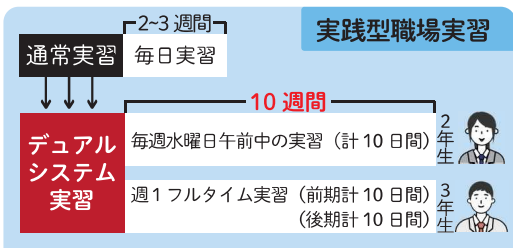
また、生徒一人一人と個別で行う面談を重視。障がいの特性はそれぞれ違うので、時間をかけてじっくりと話し、お互いの理解を深めていきます。「面談回数を重ねていくことで、本人の意思が言葉で表現できるようになっていきます。中には上手く自分の思いを言葉にできない生徒もいますが、時間をかけて向き合うことで本人の本当の気持ちを理解することができると感じています。」(進路指導部・甲斐武さん)

竹田市にある「大分県立竹田支援学校」は、主に知的障がいのある生徒たちが学んでいます。現在、小学部から高等部まで58名の生徒が在籍し、授業や職場実習、様々な作業活動に励んでいます。「小中高の生徒が同じ屋根の下で学ぶので、小学部は中学部を、中学部は高等部の活動する姿がリアルなモデルケースになっていると思います。自分がこれから進む将来の姿を間近で感じ、実践できることは特別支援学校の強みだと感じています。」(校長・東邦彦さん)

竹田市にある「大分県立竹田支援学校」は、主に知的障がいのある生徒たちが学んでいます。現在、小学部から高等部まで58名の生徒が在籍し、授業や職場実習、様々な作業活動に励んでいます。「小中高の生徒が同じ屋根の下で学ぶので、小学部は中学部を、中学部は高等部の活動する姿がリアルなモデルケースになっていると思います。自分がこれから進む将来の姿を間近で感じ、実践できることは特別支援学校の強みだと感じています。」(校長・東邦彦さん)

竹田市にある「大分県立竹田支援学校」は、主に知的障がいのある生徒たちが学んでいます。現在、小学部から高等部まで58名の生徒が在籍し、授業や職場実習、様々な作業活動に励んでいます。「小中高の生徒が同じ屋根の下で学ぶので、小学部は中学部を、中学部は高等部の活動する姿がリアルなモデルケースになっていると思います。自分がこれから進む将来の姿を間近で感じ、実践できることは特別支援学校の強みだと感じています。」(校長・東邦彦さん)

竹田市にある「大分県立竹田支援学校」は、主に知的障がいのある生徒たちが学んでいます。現在、小学部から高等部まで58名の生徒が在籍し、授業や職場実習、様々な作業活動に励んでいます。「小中高の生徒が同じ屋根の下で学ぶので、小学部は中学部を、中学部は高等部の活動する姿がリアルなモデルケースになっていると思います。自分がこれから進む将来の姿を間近で感じ、実践できることは特別支援学校の強みだと感じています。」(校長・東邦彦さん)



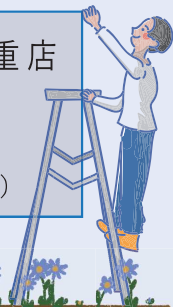
- ### 作業学習の内容
- \*\*\* 中等部 \*\*\*  
窯業・紙すき・トリニータチケット仕分け
  - \*\*\* 高等部 \*\*\*  
軽作業 (カッター部品の組み立て・文書発送作業)  
環境整備 (校内外の清掃、庭木の剪定)  
芸芸 (ティッシュケースカバー・メモ帳)  
作業活 (農作物の植え付け・収穫、農地管理)  
生 (リサイクル作業)



# 支援学校からの一般就労 vol.2



雇用した事業所 トキハインダストリー 三重店  
 もりしたしんや  
 就職した人 森下 慎也 さん  
 (出身校：大分県立竹田支援学校)



■ 仲間のサポートが働く意欲を育む

「やっぱり、この仕事が一番楽しかったです。」

昨年、竹田支援学校を卒業し、(株)トキハインダストリーに就職した森下慎也さん。在学中は製菓店や衣料販売店などで職場実習を重ねた中、実習先の一つであったトキハインダストリー三重店での仕事に充実感を覚え、ここでの就職を決定。現在は、海産部門でお寿司を作るなど製造の仕事をしています。

「入社して最初の方はやっぱり不安もありましたし、お寿司のネタを並べ間違えたりもしました。そんな時は職場の人に相談したり、悩みを聞いてもらうことができました。今の目標は、まわりの先輩のように魚を捌けるようになる事です！」

職場では、森下さんに分かりやすいように作業内容を図にして作業場に掲示したりと、仲間の理解や協力も得られています。そんな周りのサポートが森下さんの自信や働く意欲となり、会社にとって、働きやすい職場環境や、生産性の向上に繋がっていくのかもしれない。

■ 障がい者雇用は今、一番大切なこと

以前から継続的に障がい者雇用に取り組んでいる(株)トキハインダストリー。三重店店長の後藤誠二さんは「実際に働くというのには、学生時に行く職場実習と、仕事内容や勤務条件が違ってきます。最初は精神面や体力面を心配しますが、森下さんはこれまで遅刻もなく、真面目に

## ◆作業内容を図にして掲示◆

あじにぎり		作業時間目安	230	秒
		数量目安	4	パック
① トレーにしやりを取る  トレーにしやりを並べる *5貫・8貫など日によって規格有り 所要時間 約40秒	② 大葉を巻く  しやりの上に大葉を置く 所要時間 約30秒	③ 寿司ネタの(アジ)を置く  大葉の上にアジを置く。 所要時間 約40秒		
④ トッピングをする  アジの上に(練り生姜・すりごま・小ねぎ)をトッピングする。 *小ねぎの量は多めにする。 所要時間 約60秒	⑤ 蓋をする  醤油・個装ガリを入れて蓋をする。 所要時間 約40秒	⑥ 値付け  定額の高、規格・価格を確認してラベルを貼る。 所要時間 約20秒		

働いていて感心するほどです。」

「雇入れのときは企業も不安はありますが、挨拶などのコミュニケーションはもちろん、何より大切なのは職場の理解と本人の積極性。日々密接にコミュニケーションを取り合いながら、できそうな業務を見極めて主体的に働いてもらうことは、本人にとって自信になるだけでなく、企業にとっても新たな発展につながります。」

森下さんが入社したことで、先輩の負担が減り、新たな仕事を求められるようになった。新しい生産性は上がっています。障がい者の方にできる仕事はたくさんあります。こちらの思い込みで決めつけず、彼らに何ができるのかを私たちが考えることが大切だと思います。」

障がい者雇用に取り組むためにはまず、受け入れる企業の体制づくりが大切という後藤さん。お互いに心を開いて理解を深めながら共に歩むことは、本人や社員だけではなく、企業の成長にもつながるということを教えてくれました。



職場のみなさんと働く森下さん。会話から雰囲気の良い良さが伝わってきます